

そやぶらふさきおひひけあきいさくして元納の中のみ納く  
けふふらふのさかきくしれぬくたふくしれかつふ節  
よかきく身の月ハ種きくきりく元利らうきりかきり月  
らんげふ源をきりてんとは山及くそきりりけ

村田  
古川

古堂換深丸津略縁記

滅亡氣程曰はばきり恒古堂亡天おほくしひ流人の慈悲言  
根をきりくはななりかきりあか四名を古堂換りきりくきり  
一系深き案ハ金指は宝ハ残きりひるんとの田指云預之の

いけきくもは換傍世性滅亡世界おほくしり大名小名  
をける一す先の圖を照しり一す案おほくし換傍之縁記  
よ白今人略天名の田ハ陰約あき一子己のおふ六月一日武  
義の門大長秋の皮ハ朝長暮小深くして田尚強の海中に  
語りきりて和しりしは語ふ信残強の本意くはり是をあら  
北田の工能くしりあはあ妙なる武妙なるがに義忠案の字忽ち信  
て倭肝於智の無の月けきりかきりてく武威疾士の信忽ち  
そふ案ふ有強きりて人信あきりすや

也云云ハ 田のきりきり

川舟の舟ふりき換車二刻〜小刻  
〜〜〜

朱安五六カ

いつとむいのも法紙あまふのひく物あひたさるハ  
そのあひさるも残し徳也のあつり念ふととととと  
居るも合つていさつ〜田延生さ〜さ〜さ〜さ  
徳あき田風情やつてかきと〜たますさ〜あ〜さ肥田も  
北極〜〜

文化九三申年大小

大酒をやめ〜 候よ小

新玉の流ひ〜 雅英候  
初年参り戸〜 さ  
離柳やま〜 小州 候  
秋迎〜 生  
兼〜 常備酒  
氷室の候〜 戸  
七夕の星の神酒〜 御上り